

株式会社あざみ屋は、2021年～2022年を、
創業50周年のアニバーサリーイヤーといたしました。

「想いと願いと情熱と～創業50年の節目にあたり～」



あざみ屋は1971年、父である新哲次と母の絹枝があざみ洋品店から織物業に業種転換をして工房を立ち上げました。石垣島に織物事業所を起業した、この創業時から50年になりました。（法人登記は1976年5月15日）

その間、お客様をはじめとする多くの関係者、地域の皆様に支えられて今日が有りますことを心から感謝を申し上げる次第であります。

50年前日本本土復帰前の当時目まぐるしい経済成長を遂げていた日本本土に大きな憧れや期待の想いがありました。そして地域に「製造業を起こしたい」「伝統を残したい」「女性に仕事の機会を創出したい」という願いがありました。

その想いが願いとなり、その願いに情熱が加わり、起業というアクションを起こさせたと思うとき、「想いと願いと情熱をアクションに繋げる事」が大切であったと考えます。

これまであざみ屋は、創業後以来、情熱をもって様々なアクションを起こして参りました。みんなの持つ可能性を追求して東京の生地やインテリア、ギフトなどの多くの見本市にも出品致しました。その挑戦は試行錯誤を重ねましたが、めげずにチャレンジし続けました。

そして、2000年代に入りファッションの世界的な先進地であるフランスまでみんなーを展開し、パリコレや世界的な見本市メゾン・エ・オブジェに出品することが出来ました。これらの体験で得られた事を、お客様にいち早く還元出来たことは大変良かったことでした。

また、これらの体験を通じて「伝統と革新」が大切であることを学びました。不易流行のようにいつまでも変わらない要素を大切に、一方では新しく生じてくる、時の感性などを捉えたものづくりをして提供する事。その両方が大切だと思います。

あざみ屋は、お客様の想いを受け止め、みんなーの持っている「いつの世」の良さを大切に、時代時代の感性を捉え、且つ、想いと願いを込めた製品づくりをしっかりと行って参りたいと存じます。

そして、これまで多くのお客様に支えられながら歩んでこられた感謝を忘れず、多くの皆様のライフスタイルの一部となるような製品づくりをし、織物文化をお客様と共に育んでいきたい。その様な事をお約束して50年の節目のご挨拶と致します。

代表取締役社長
新 賢次